

挑む!

スポーツ内科医

田中 祐貴さん(31)

運動とカラダ 困りごと診察室



日本内科学会認定内科医。兵庫県明石市の大久保病院スポーツ内科外来で診療。4月からは大阪市都島区の東朋病院でもスポーツ内科外来を開設予定。

走ると脇腹が痛くなる、月経がこない……。運動にまつわる体の困りごとに、内科医の立場から治療にあたる。神戸市出身。小学2年の時に阪神・淡路大震災に遭った。自宅は半壊し、3カ月超の避難所生活。友も失った。

「命の大切さ」を感じ医学を志した。神戸大医学部時代に偶然、実習でスポーツ内科の先駆者の医師の元に配属になった。小学生の頃から卓球をしており、昔からスポーツ好き。スポーツと医者といえば整形外科と思っていた

が、「ひっきりなしにアスリートが訪れ頼りにされる姿に、『これだ』と思った」。卒業後は腎臓内科に4年勤めたあとスポーツ内科医になった。

野球教室などに「営業活動」し、内科的なケアの必要性を説いて回った。今では2時間待ちが出るほどに。最近、増えたのが無月経の相談だ。多くは摂取エネルギー不足が原因で、疲労骨折を起こすこともある。食事記録や血液検査を確認し、栄養指導して回復させていく。女性ホルモン剤を処方することもある。「他の病院で運動をやることもある。『他の病院で運動をやる』と言われた子が来ることも多い」。栄養面の支援を強化するため、栄養士を巻き込んだ「関西スポーツ内科・栄養学会」を立ち上げた。「気になることがあれば、相談しに来てほしい。体に関心を持つことが大事です」

文・藤田絢子 写真・植谷綾二

記者から

「スポーツ内科に行ってくる」。東京五輪の頃には、ぐっと身近なフレーズになっているかも。